　2022年9月2日

資料③

　　　（一社）日本体育・スポーツ・健康学会

　　　　体育社会学専門領域　評議員会　研究委員会　報告

委員長：松尾哲矢（立教大学）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　委員：石坂友司（奈良女子大学）

稲葉佳奈子（成蹊大学）

工藤保子（大東文化大学）

原　祐一（岡山大学）

山田力也（西九州大学）

１．2022年度事業計画及び進捗状況について

１）2022年度一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会開催について

（１）会期：2022 年 8 月 31 日（水）から 2 日（金）

（２）会場校：順天堂大学

（３）開催形式：対面開催

（４）主なスケジュール

大会1日目（8月31日）オープニングセレモニー／総会／テーマ別研究発表

／テーマ別シンポジウム／本部企画シンポジウム

大会2日目（9月1日）テーマ別研究発表並びにテーマ別シンポジウム

大会3日目（9月2日）キーノートレクチャー、専門領域別研究発表

　キーノートレクチャー　（9月2日（金）11：00－11：50）

　　タイトル：「体育社会学の専門性を俯瞰する」

　　　演　者：海老原　修（尚美学園大学）

　　　司　会：工藤保子（大東文化大学）・原　祐一（岡山大学）

２）2022年度体育社会学専門領域研究会の開催

学会大会全体の開催方式の変更に伴い、本学会大会期中には体育社会学専門領域シンポジウムを開催することが困難となった。このため、会期中にキーノートレクチャーを実施することとし、学会大会前日（8月30日）に2022年度体育社会学専門領域研究会を開催した。

（１）テーマ

「地域スポーツクラブは何を求められているのか：第３期スポーツ基本計画と部活動の地域移行がもたらす変化」

（２）開催日時　2022年8月30日（火）　15:00～17:30　無料

（３）会場　明治大学駿河台キャンパス　グローバルフロント2階4021教室

（４）趣旨

2022年に策定された第3期スポーツ基本計画には、スポーツの価値を高めるための新たな「３つの視点」が設けられた。そこにはスポーツを「つくる／はぐくむ」（視点１）ために柔軟・適切な手法や仕組みを導入すること、様々な立場や背景、特性を有した人や組織が集まり課題に対応する、すなわちスポーツで「あつまり、ともに、つながる」（視点2）こと、そして、スポーツに「誰もがアクセスできる」（視点3）ようにするための「場づくり」などが施策として掲げられている。

一方、昨年からスポーツ庁では部活動の地域移行化の議論も進められており、5月の有識者会議を経た提言案では、教員の「働き方改革」にとどまらず、地域スポーツクラブが部活動の「受け皿」として期待されていることが明らかになっている。

こうした流れを受けて、本研究会は、今後をみすえた地域スポーツクラブの可能性や課題について議論すべく上記テーマを設けた。これまで地域スポーツクラブについては、具体的な制度や受益者負担をどうするかという問題など現実的な課題への対応をめぐる議論に傾きがちであったが、今回は、より根本的な、地域クラブや部活動をとりまくスポーツ文化のあり方を問う視点を共有しながら議論を深めたい。

そのため、公共性からみた地域スポーツクラブについて研究をされている海老島氏、行政や現場で地域スポーツクラブの運営に携わってこられた西氏、松田氏、社会学の視点から地域スポーツクラブについて研究をされている伊藤氏にご報告いただく。

（５）報告者

・「地域クラブと学校部活動の相互補完性構築に向けて−スポーツ環境における多様性，個別性を確立するには」

海老島均（成城大学）

・「『部活動の地域移行』～いま総合型クラブが地域に求められる理由～」

西　政仁（奈良県生駒市生涯学習部スポーツ振興課）

・「スクール・コミュニティクラブひらの倶楽部のチャレンジ ～部活動の地域

移行を超えて～」

松田 雅彦（大阪教育大学附属高等学校平野校舎、スクール・コミュニティクラブひらの倶楽部会長）

・「縮小化する地域社会と場を継承するスポーツクラブ」

　　伊藤 恵造（秋田大学）

（６）コメンテーター

伊藤恵造（秋田大学）

（７）司会

　　　・稲葉佳奈子（成蹊大学）　・原　祐一（岡山大学）　・石坂友司（奈良女子大学）

３）専門領域研究セミナーの開催

研究および会員サービスの充実に資するため、体育社会学専門領域研究セミナーを実施する。

　　　（１）名称：2022年度第1回体育社会学専門領域研究セミナー

（２）期日：2023年2月20日（月）18：00－20：00

４）一般発表の事前審査について

　　　本年度の本事業は終了した。

　以上